

胎児の存在を意識することによる妊婦の内面的変容と バースプランの変化 ～身体感覚活性化マザークラス参加前後の比較から～

藤木久美子¹⁾ 佐藤 香代²⁾

¹⁾ 福岡大学医学部看護学科

²⁾ 国際医療福祉大学大学院助産学分野

要旨：本研究の目的は、身体感覚活性化マザークラス（全5回）を通して、妊婦は胎児の存在を意識することによってどのような内面的変容過程をたどり、バースプランに変化をもたらしたかを明らかにすることである。マザークラスに参加した8名の妊婦のバースプランや全レッスンにおけるシェアリングでの語りを質的帰納的に分析した。その結果、10のカテゴリー【胎児と向き合う余裕がない】【お産への不安が強い】【胎児に意識が向いていないバースプラン】【胎児の存在を意識する】【身体感覚を活性化する】【胎児が感じている感覚・思いを感じる】【胎児との対話になる】【胎児とともにあるバースプラン】【仲間と感覚を共有できた】【マザークラスの特別な空間】が抽出された。マザークラス参加前の妊婦は、出産への不安が強く、バースプランは自分の要望を中心に書かれたものであった。しかし、マザークラスのなかで身体感覚を活性化され、「快」の感覚の中で胎児の存在を意識した妊婦は、胎児への愛着を形成し、「母親」となる自分を自覚し、胎児とともに出産へ向き合うバースプランを立案するように変化した。ゆえに、妊婦はいわゆる五感を刺激され、「快」の感覚の中で胎児の存在を意識することで、妊娠中から愛着形成が促進され、胎児とともに主体的に分娩へ臨むことが示唆された。

キーワード：胎児，バースプラン，妊婦，身体感覚活性化マザークラス，五感，愛着